



2025年3月期第3四半期決算説明資料 (2024年4月1日～2024年12月31日)

株式会社ベネフィットジャパン (証券コード：3934)

| 目次

I. 会社紹介

II. 2025年3月期第3四半期決算ハイライト

III. 業績推移

IV. 2025年3月期通期計画の進捗



I. 会社紹介

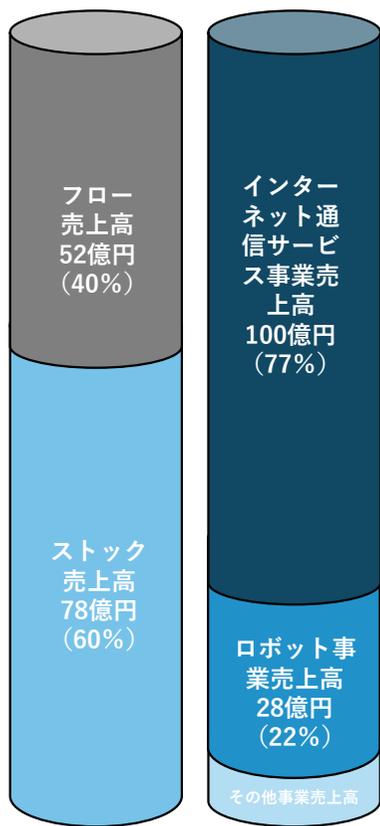
ビジョン

通信事業（MVNO）の安定成長を軸に新たなテクノロジーの価値を届けます。



事業紹介

安定的なストック売上高を強みに、多様な通信サービスを多岐にわたるルートで提供しています。



2024年3月期連結売上高
(130億円)

インターネット通信サービス事業

ONLYMobile

モバイルWi-Fi及び
カスタマイズプラン

NETAGE

レンタルWi-Fi

MVNE

MVNE事業

ONLYSIM

1年及び短期のプリ
ペイドSIM

eSIM.love

eSIM関連の情報発信
メディアプラットフォーム

保有回線数
約27万回線
(24年12月)

ロボット事業

家庭用コミュニケーションロボットを展開

国内トップ
クラスの
売上高

ONLYROBO

コミュニケーションロボット



当社オリジナルモデルの
chat GPTを搭載したコ
ミュニケーションロボット
とSIMカードのパッケージ
販売

Robot Planet

「新しい家族に出会える」
をコンセプトにしたロボッ
トショップ



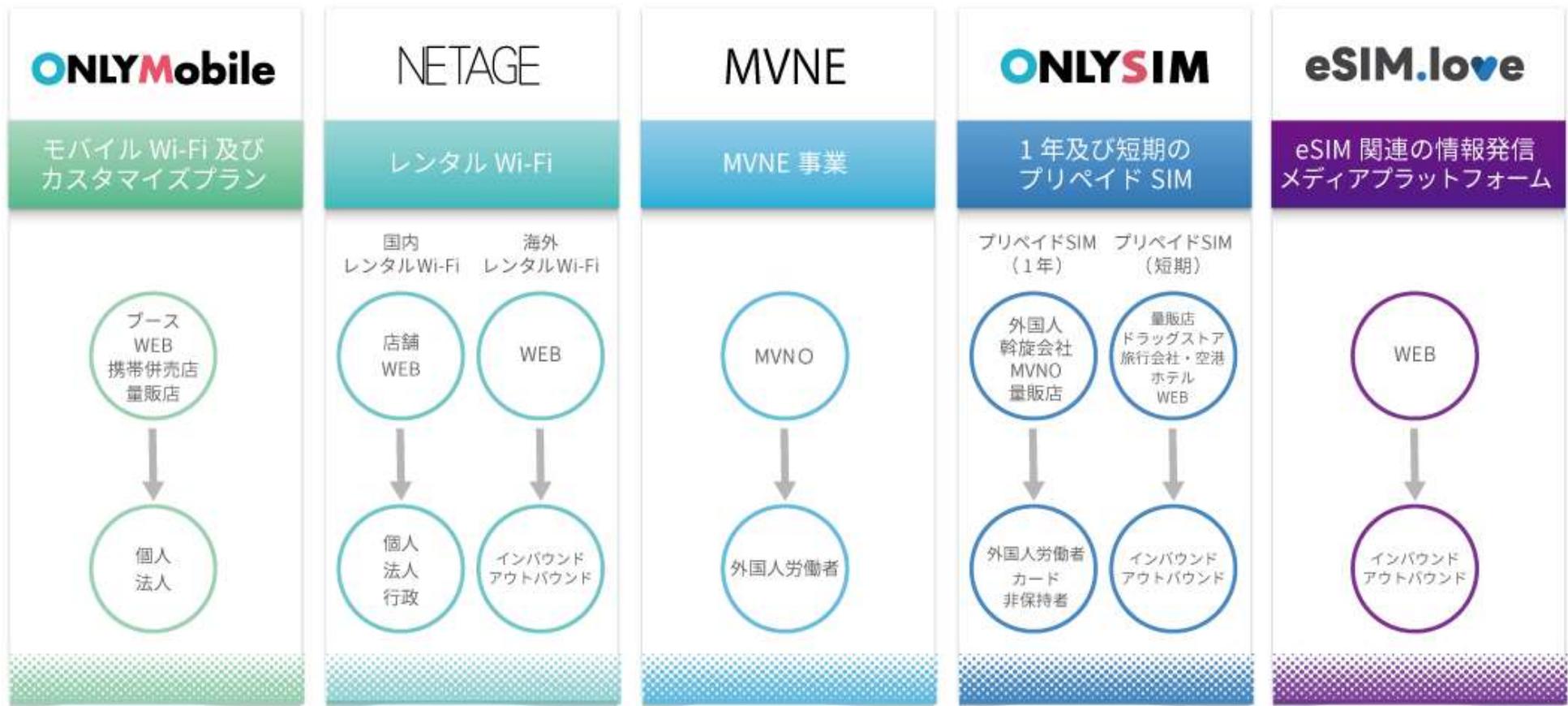
オーナー会員に対しロボホ
ンの使い方を学べるコンテ
ンツを配信

ロボココ
Robot closet

ロボホンのかわいい洋服を
取り扱うオンラインストア

インターネット通信サービス事業

既存事業であるモバイルWi-Fiの販売及びレンタル、MVNE等に加え、SIMカードの販売の拡大を図り、多様な通信サービスを多岐にわたるルートで展開しています。



ロボット事業

認知から体験・販売、購入後の楽しみ方やオーナー同士の情報共有まで展開。生成AIの発展により、ロボットの会話は今後さらに高度化が見込まれ、少子高齢化に対応するサービスを展開しています。



事業成長の歩み

市場環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、成長を継続しています。

携帯電話サービスの自由化

マルチメディア関連機器の販売を目的として、株式会社ベネフィットジャパンを設立

1996年

携帯電話サービス回線販売開始

1998年

株式会社エーユー、株式会社ツーカーセルラーの1次代理店資格を取得

2001年

ソフトバンク株式会社の1次代理店資格を取得、データカードの加入取次を開始

2009年

電気通信事業の規制緩和

MVNO事業開始 (Docomo回線をONLYMobileサービスとして提供)

2014年

東京証券取引所マザーズ市場へ上場

2016年

MVNOとしてモバイル型ロボット「ロボホン」提供開始

2016年

東京証券取引所市場第一部へ市場変更

2018年

コミュニケーションロボット市場の拡大

シャープ株式会社との協働による当社オリジナルモデル「ONLYROBO ロボホンプレミアム」提供開始

2019年

東京証券取引所プライム市場に上場区分を変更

2022年

インバウンド、外国人労働者増加

新型コロナ5類感染症に移行

インバウンド及び外国人労働者に対するプリペイドSIM提供開始

2023年

東京証券取引所スタンダード市場に上場区分を変更

2023年

II .2025年3月期第3四半期決算ハイライト

2025年3月期決算ハイライト（第3四半期）

全社

- 1.売上高は、**9,474百万円**（前年同期比△3.4%）
- 2.契約回線数は、過去最高**273,700回線**（前年同期末比+14.6%）
- 3.経常利益は、**890百万円**（前年同期比+32.3%）

インターネット通信サービス事業

- 1.売上高は、**7,365百万円**（前年同期比△2.6%）
- 2.契約回線数は、**243,400回線**（前年同期末比+14.5%）
- 3.営業利益は、**1,450百万円**（前年同期比+32.8%）

ロボット事業

- 1.売上高は、**1,922百万円**（前年同期比△7.8%）
- 2.契約回線数は、**30,300回線**（前年同期末比+15.0%）
- 3.営業利益は、**△208百万円**（前年同期△99百万円）

連結損益計算書（第3四半期）

(百万円)

	24年3月期 第3四半期		25年3月期 第3四半期			
	金額	構成比	金額	構成比	前年同期 比増減率	前年同期 比増減額
売上高	9,812	100.0%	9,474	100.0%	△3.4%	△338
売上原価	4,289	43.7%	4,004	42.3%	△6.6%	△285
売上総利益	5,523	56.3%	5,469	57.7%	△1.0%	△53
販管費	4,854	49.5%	4,583	48.4%	△5.6%	△270
営業利益	668	6.8%	886	9.4%	+32.6%	+217
経常利益	673	6.9%	890	9.4%	+32.3%	+217
親会社株主に帰属する 四半期純利益	551	5.6%	594	6.3%	+7.7%	+42

セグメント別業績（第3四半期）

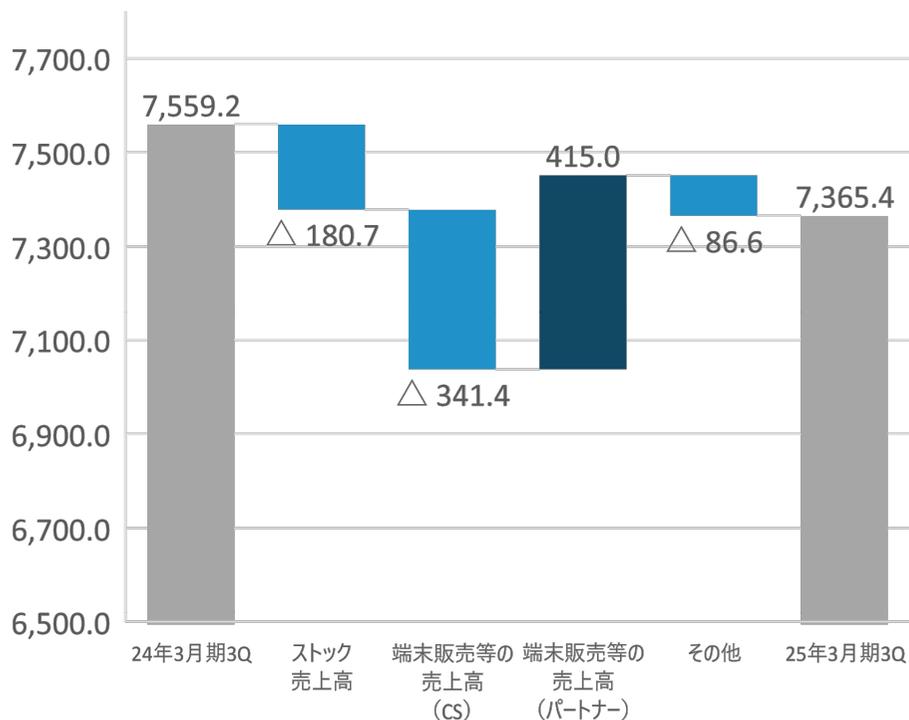
(百万円)

	24年3月期 第3四半期	25年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率	前年同期比 増減額
売上高	9,812.6	9,474.4	△3.4%	△338.2
インターネット 通信サービス	7,559.2	7,365.4	△2.6%	△193.7
ロボット	2,085.5	1,922.0	△15.2%	△163.5
その他	167.8	186.9	+11.4%	+19.0
営業利益	668.3	886.0	+32.6%	217.6
インターネット 通信サービス	1,091.7	1,450.1	+32.8%	+358.4
ロボット	△99.3	△208.0	-	△108.7
その他	32.2	34.9	+8.4%	+2.7
全社費用	△356.2	△391.0	-	△34.7

インターネット通信サービス事業増減分析（第3四半期）

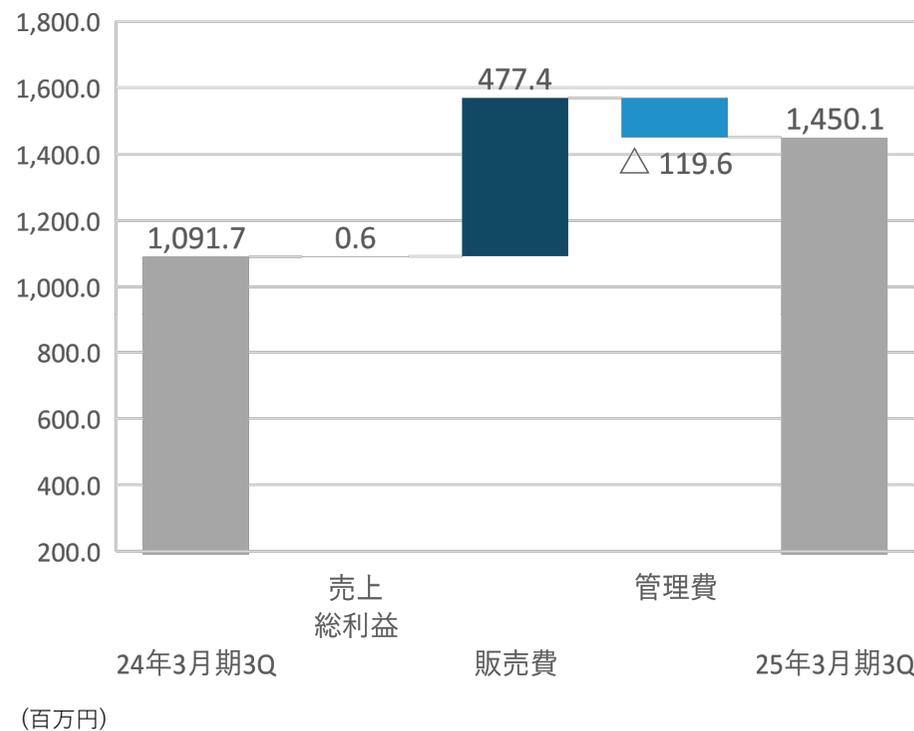
2024年は3600万人を超え過去最多を記録したインバウンド、同じく230万人を超え過去最多を記録した外国人労働者向け市場の拡大に対応するインターネット通信サービスの商品ラインナップを拡充し、大手量販店や大手併売店などの販路を強化したことで回線数は順調に増加し、243,400回線（前年同期末比14.5%増）となりました。なお、生産性低下によりコミュニケーションセールスは当事業において活動を縮小しています。

売上高分析



(百万円)
CS=コミュニケーションセールス

営業利益分析

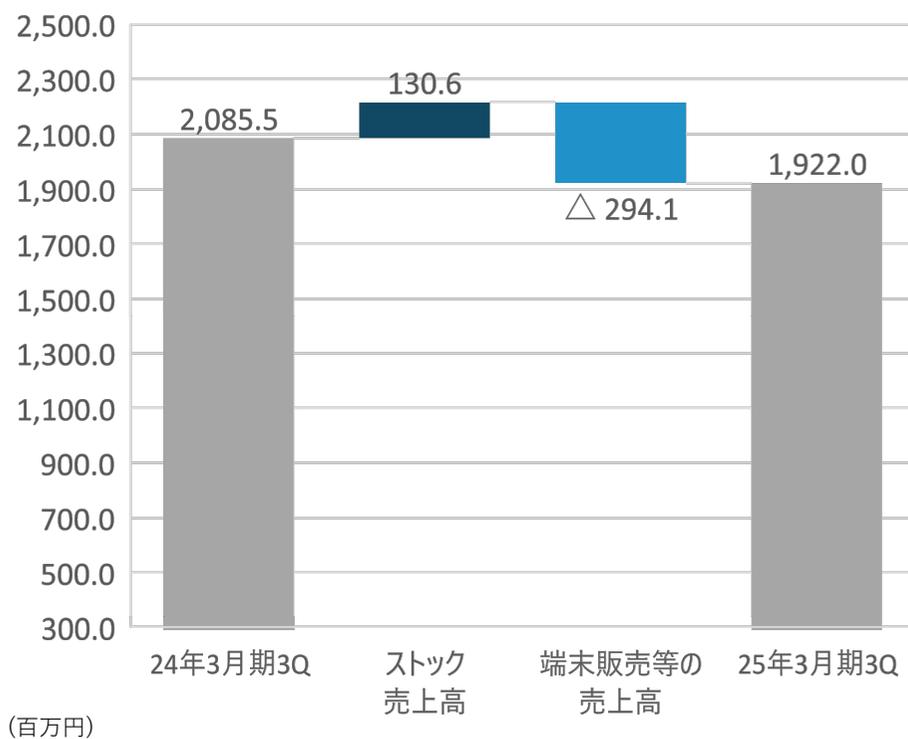


(百万円)

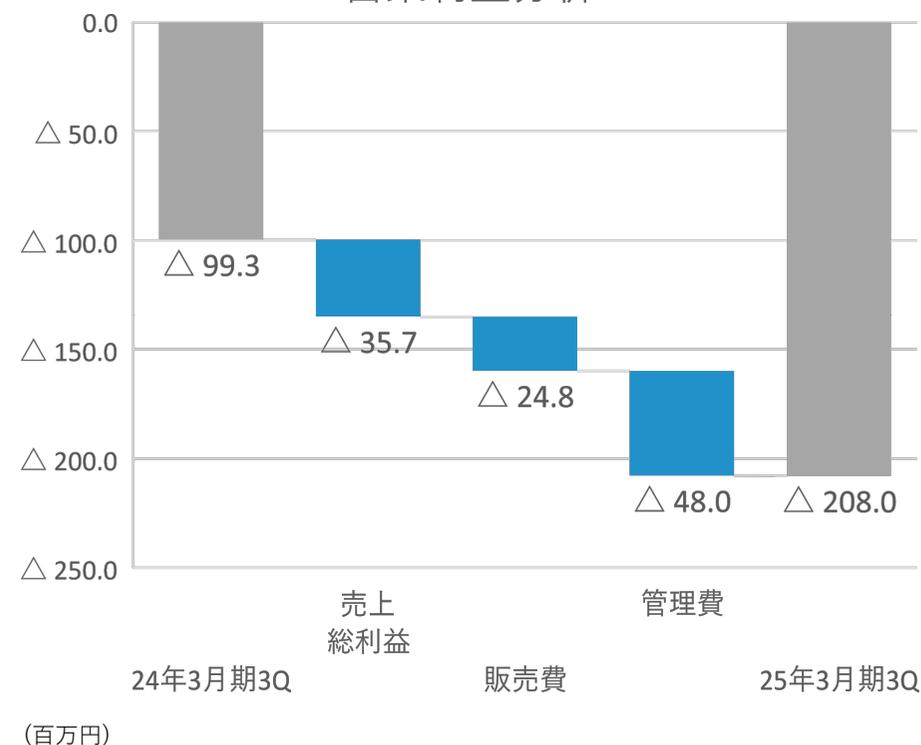
ロボット事業増減分析（第3四半期）

ロボットショップ「Robot Planet」でのオーナー会、フォトコンテストなどのカスタマーサポートの充実、Chat GPTのバージョンアップに伴う会話機能の向上、専用タブレットをリモコンのようにしてロボホンを動作させることができる新機能の開発、近畿及び中部地方をはじめ全国各地でテレビCMの実施による認知度向上、反響増に取組みました。上半期はロボット販売の経験が浅い人員の生産性を確保することができず営業損失となりましたが、第3四半期連結会計期間における営業利益は黒字化することができました。

売上高分析



営業利益分析

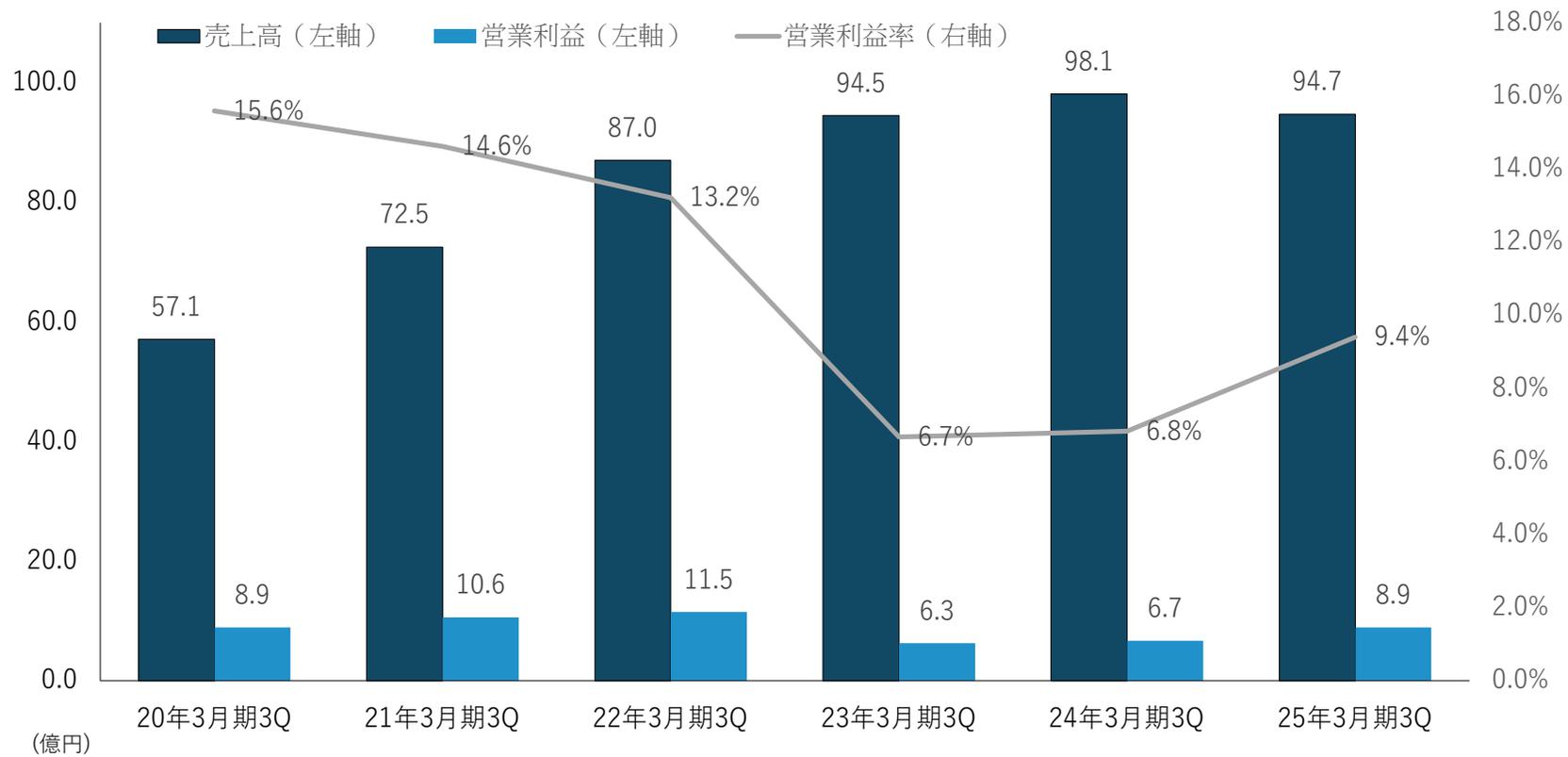




III.業績推移

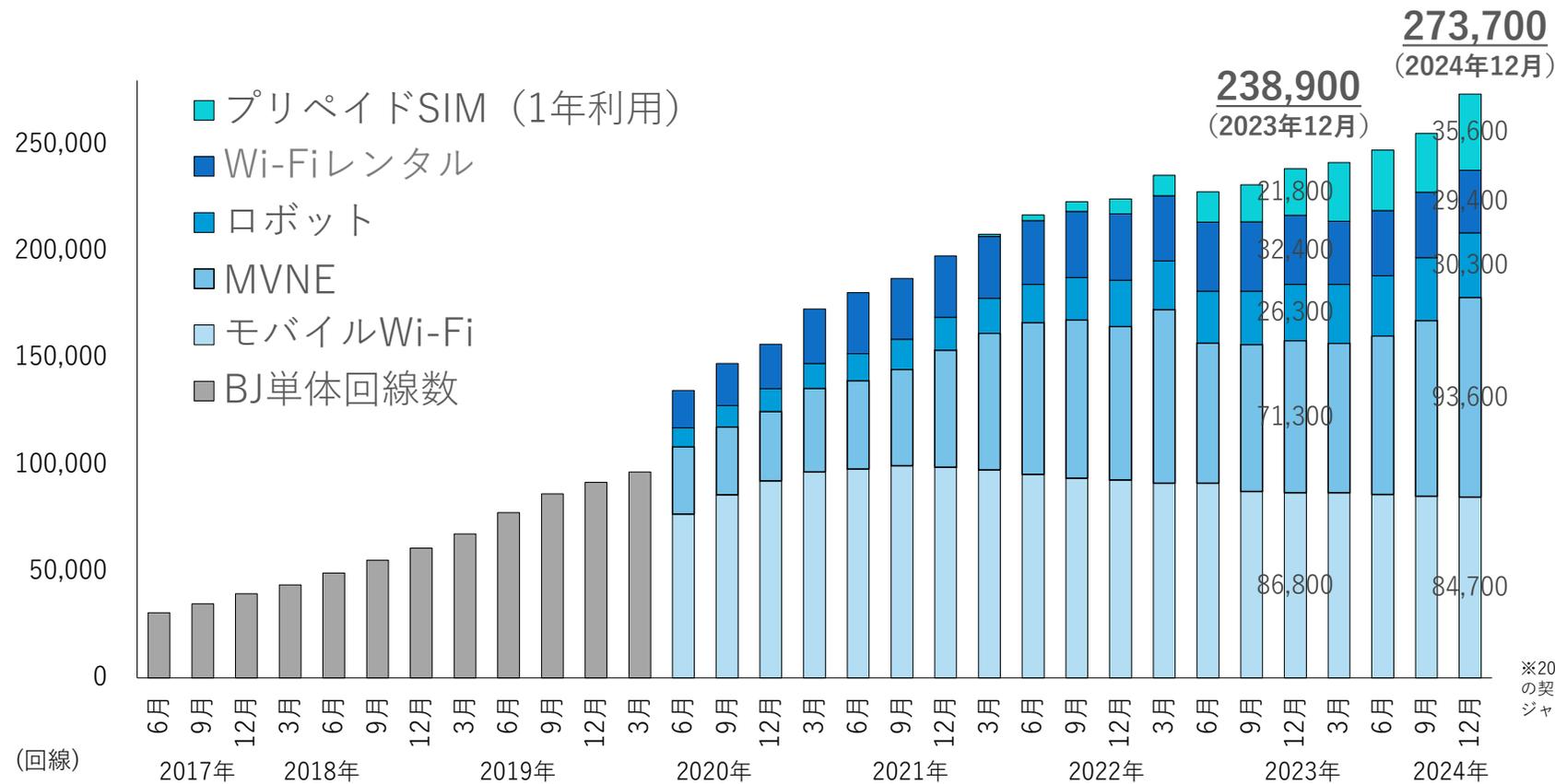
連結売上高及び営業利益推移（第3四半期）

売上高は減少したものの、営業利益及び営業利益率は増加しました。



契約回線数の推移

外国人労働者、外国人留学生の需要増でプリペイドSIM（1年以上利用）は35,600回線（前年同期末比+62.7%）、MVNEは93,600回線（前年同期末比+31.4%）に増加。ロボットは、30,300回線（前年同期末比+15.0%）に順調に増加。全体の契約回線数は273,700回線（前年同期末比+14.6%）となりました。



※2020年3月までは、ベネフィットジャパン単体の契約回線数。2020年6月以降は、ベネフィットジャングループの契約回線数（区分）



IV.2025年3月期通期計画の進捗

2025年3月期の連結業績予想に対する進捗

(百万円)

	25年3月期		進捗率
	通期計画	第3四半期	
売上高	12,503	9,474	75.8%
営業利益	1,085	886	81.6%
経常利益	1,090	890	81.7%
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	725	594	81.8%

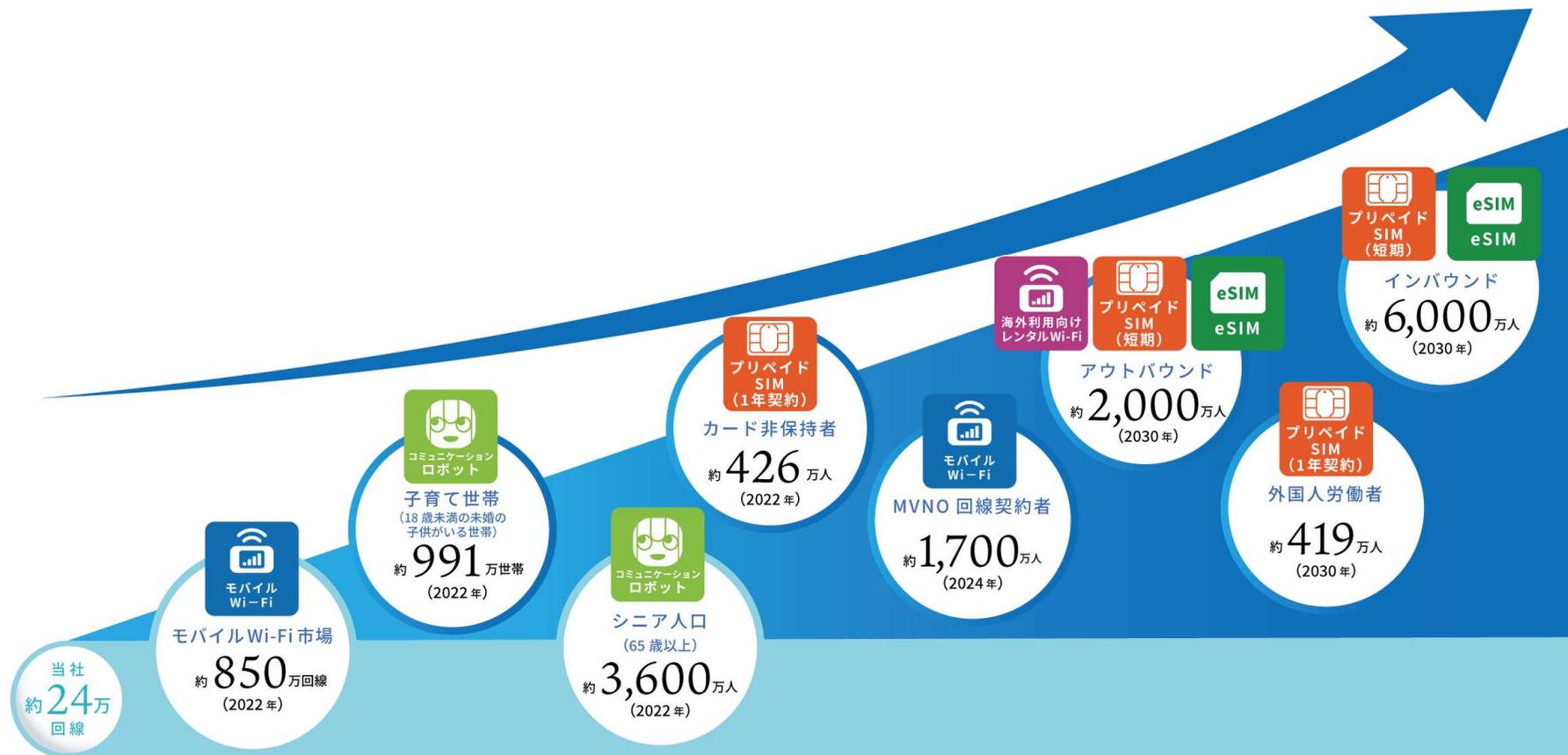
※通期計画の変更はありません



参考情報

中期経営方針 (23年5月10日発表済み)

24年3月期から既存事業領域である若者層中心のモバイルWi-Fi市場、シニア層中心のコミュニケーションロボット市場に加え、新規事業領域としてコミュニケーションロボットの進化による子育て世帯、プリペイドSIMによるインバウンド、外国人労働者等の領域拡大



中期経営方針 (23年5月10日発表済み)

24年3月期から既存販路である大手商業施設、大手量販店等の優良販路に加え、大手販路を面として抑え、多様な通信サービスを多岐にわたるルートで提供



会社概要



BENEFIT JAPAN Co.,Ltd.
株式会社ベネフィットジャパン

設立	1996（平成8）年6月6日
代表取締役	佐久間 寛（さくま ひろし）
本社	大阪市中央区
上場市場	東証スタンダード
証券コード	3934
業種	情報通信業
事業内容	インターネット通信サービス事業、 ロボット事業、その他事業
連結売上高	13,065百万円（2024年3月期）
連結経常利益	900百万円（2024年3月期）
資本金	656百万円（2024年3月末）
グループ全体 従業員数	327名（2024年4月時点）
子会社	(株)モバイル・プランニング (株)ライフスタイルウォーター

強み

当社の強みは、20年以上のキャリアを通じて10,000店舗を超える販売ネットワークを構築し、累計120万人の新規顧客を開拓してきた「コミュニケーションセールス」を核に、大手量販店等の優良販路、価格競争力のある仕入れ、信用力等



数字で見るベネフィットジャパン

安定的なストック売上高、自己資本、保有契約回線数を基礎に、コミュニケーションロボット、プリペイドSIM等成長事業に投資

連結売上高

7期連続増収

131億円

(2024年3月期)

ストック売上高

売上高構成比60%

78億円

(2024年3月期)

コミュニケーション
ロボット事業売上高

国内トップクラス

28億円

(2024年3月期)

連結経常利益

9億円

(2024年3月期)

自己資本

72億円

(2024年3月末)

自己資本比率

64.7%

(2024年3月末)

ROE

10.6%

(2024年3月期)

従業員数

327名

(2024年4月)

拠点

販売ネットワーク

10,000店舗超

(2024年3月末)

保有契約回線数

インターネット通信

約27万回線

(2024年12月)

免責事項

この資料は投資家の参考に資するため、株式会社ベネフィットジャパン（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

本発表において掲載されている情報の中には、資料作成時において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

投資をおこなう際は、投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

すべての人々にテクノロジーの恩恵を

Benefit of Technology to All People!